



ごみをへらそう

●ごみ対策課 011-72-3126 011-75-2275
粗大ごみコールセンター 011-62-5353
✉gomi@city.ishikari.hokkaido.jp

一般家庭ごみも

9月からごみステーションへの
排出は禁止です！

カラスやネコなどに荒らされないよう、ネットやごみ箱の設置を！

収集車の通る道路に面した、ご自宅の敷地内に出してください。
風で飛ばないように工夫し、隣近所の迷惑にならないようお願いします。

9月からの一般ごみの出し方

9月中は市販されている半透明・透明の袋、またはレジ袋でもOK。10月からは指定の袋を使うことになります。

集合住宅は入居者専用ごみステーションに！

マンションやアパートなどの集合住宅は、入居者専用のごみステーションを設置していただきます。



一般家庭ごみの出し方が変わります。

9月1日からは一般家庭ごみも粗大ごみ同様、収集車の通る道路に面した、ご自宅の敷地内に出していただくこととなります。これまで使用していた「ごみステーション」には、ごみを出せなくなりますので、お間違いないようお願いいたします。

10月1日からは資源物を除き、すべてのごみの収集が有料となります。「ごみの出ない・出さない社会づくり」の一環としての取り組みに、市民の皆さんの理解とご協力をお願いします。

粗大ごみ

戸別収集の地区別日程（祝日の場合も回収）

浜益区

毎月第2月曜

浜益・群別・幌床丹・千代志別
雄冬

毎月第2火曜

川下・柏木・実田・御料地
昆砂別・送毛・濃屋
（厚田区濃屋も含む）

厚田区

毎月第1月曜

石狩

（虹が原含む）
毎週月曜



ごみステーションへの『粗大ごみ』の排出は

禁止！

7月から
粗大ごみは有料戸別
収集に変わりました

粗大ごみ戸別収集の手順

- ①粗大ごみコールセンターに収集希望日の2週間前までに電話でお申し込みください。収集を希望する粗大ごみの種類に応じた「粗大ごみ処理券」の金額と受付番号をお知らせします。
・粗大ごみコールセンター
011-62-5353
- ②必要な額の「粗大ごみ処理券」を取扱店で購入してください。
- ③「粗大ごみ処理券」の取扱店については、ごみリサイクル情報誌「かいけつごみ太くん」をご覧ください。
- ④お知らせした受付番号を「粗大ごみ処理券」に必ず記入してください。
- ⑤収集を希望する粗大ごみに「粗大ごみ処理券」を必ず張ってください。
- ⑥決められた収集日・時刻までに収集車の通る道路に接する自宅敷地内に排出してください。

いしかり・ごみへらし隊からのお知らせ

園いしかり・ごみへらし隊事務局（ごみ対策課内011-72-3126）

平成18年度はミックスペーパー再資源化モデル事業を拡大して実施しています。登録、申し込みが必要です。登録は電話でもOKです。

ロコミで知らせよう
石狩の
観光②

石狩の釣りの魅力

今回のナビゲーター



家族や仲間と石狩の雄大な海岸や漁港で、釣りを楽しんでみませんか!

釣り情報サイト「釣り友」

山道正克 編集長

1953年、室蘭市生まれ。明治大学卒業後、雑誌記者を経て、編集制作会社(有)ラッコ設立。北海道の釣り情報サイト「釣り友」運営。(財)日本釣振興会北海道地区支部副支部長。

■ 問合せ先 釣り友
☎011-709-6111
<http://www.tsuritomo.net>



石狩河口橋下の石狩川は、車のそばでさおが出せることから家族連れに人気があります。



厚田、浜益に向かう国道231号沿いには漁港も多く、チカやカレイ釣りの人気スポットです。

本釣振興会北海道地区支部では毎年春に、石狩を会場とした千人規模の釣り大会を開き、今年もビギナーからベテランまで多くの釣りファンでにぎわいました。石狩を会場に選んだのは、札幌から1時間以内というアクセスの良さや、審査会場にお借りした観光センター周辺の施設が充実していることも理由の一つでした。番屋の湯や浜益温泉などの温泉施設や公衆トイレが整備されていることも見逃せない魅力といえます。自然と親しみ、生き物と触れ合うレジャーは種々ありますが、釣りは年齢や性別を問わず、誰もが自分のキャパシティに合わせて楽しめる趣味だと思っています。ただ、気になるのは海岸や漁港に散乱するごみ問題。明らかに釣り人が忘れたごみも目立ち、当支部でも釣り場の清掃活動やごみの持ち帰り運動などを呼び掛けています。

石狩の海岸が次の世代にも受け継がれる豊かな釣り場であるためにも、釣り人としてのマナーを守り、のんびりと釣り糸を垂らしてみてはいかがでしょうか。

厚田、浜益との合併によって、道央圏に住む釣り人にとって身近で魅力的なフィールドです。サケのふるさと・石狩川を有し、穏やかな砂浜と切り立った岩場の景勝地が連なる海岸線では一年を通して、さまざまな魚がさおを揺らし、釣り人の一喜一憂する姿が見られます。

石狩市で最も釣り人が集まるのが石狩湾新港。国際テロに備えて港の保安対策が強化されたため、入釣場所は限定されましたが、樽川ふ頭横のハマスプロムナードなどのスポットは春のカレイやホッケ、チカやイカ、冬のコマイまで年中、人が絶えません。石狩浜ではバーベキューやキャンプをしながら釣りざおを出す家族連れも多く、遊漁船で釣りを楽しむ人も少なくあ

りません。また、厳寒期には茨戸川でのワカサギ釣りが冬の風物詩となっています。

さらに厚田、浜益へと足を延ばせば、カレイやホッケ、アブラコやカジカなどさらに魚種も広がります。浜益川では毎年秋にサケの有効利用調査として河川でのサケ釣りを開放していますが、今年も7月から募集が始まり、道央圏では唯一、サケ釣りができる河川として地域経済への波及効果も期待されています。こうした環境から、石狩が道内の釣り人だけでなく、道外からも人を呼べる地域であることは言うまでもなく、釣りを軸とした北海道観光の新たなスポットとしてアピールすることも可能だと思っています。

私が副支部長を務める(財)日



いつもは大勢の釣り人でにぎわう場所も、写真のように平日は静かなことも。こんな日こそチャンスかもしれません。